

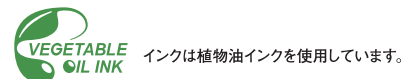


札幌ドームの「社会と環境への取り組み」についての最新情報は
下記ホームページをご覧ください。

<http://www.sapporo-dome.co.jp>

株式会社 **札幌ドーム**
〒062-0045 札幌市豊平区羊ヶ丘1番地 TEL011-850-1000(代) FAX011-850-1011
発行:2011年6月 ※2011年6月現在の資料をもとに作成しています。内容は変更になる場合があります。

資源と環境の保護を考え、本紙には適切な森林管理の下で生産された木材を使用して作られた「森林認証紙」を使用しております。



インクは植物油インクを使用しています。



夢、感動、新たなステージへ
～ありがとう開業10周年! あなたと、これからも～

札幌ドーム CSRレポート 2011

SAPPORO DOME CSR REPORT



株式会社 **札幌ドーム**

編集方針

株式会社札幌ドームは、2008年より「環境への取り組み」を中心とした年次報告書を発行してまいりましたが、札幌ドーム開業10周年を機に、新たに「CSRレポート」として発行し、当社の取り組みについて、CSR(=企業の社会的責任)の視点から幅広くご報告することとしました。

本レポートでは、私たちにとってのすべてのお客さま(=ステークホルダーの皆さま)に、当社のCSRに対する基本的な考え方をご理解いただくとともに、「安全安心の確保」「快適さの追求」「地域社会への貢献」、そして「環境への取り組み」について、写真や図表を用いて、できるだけわかりやすく伝えることを心がけました。CSRレポートとしての内容は、まだまだ不足している点もありますが、本レポートの発行を、今後の更なるCSRの推進につなげていきたいと考えています。本レポートをお読みいただき、忌憚のないご意見やご感想をお寄せいただければ幸いです。

報告対象期間

本レポートでの報告は、2010年度(2010年4月1日~2011年3月31日)の活動を対象としていますが、当社の事業活動をご理解いただくため、札幌ドーム開業からの取り組みについてもご紹介しています。

発行時期

2008年より年次報告として毎年発行しています。
 ・2008年6月 札幌ドーム ECO MOTION ひとりひとりがエコプレイヤー
 ・2009年6月 環境報告書
 ・2010年6月 社会・環境報告書
 ・2011年6月 CSRレポート

ホームページへの掲載

本レポートは、ホームページ上におきましても閲覧いただけるようpdfを掲載しています。

<http://www.sapporo-dome.co.jp>

C O N T E N T S

TOPメッセージ..... 3

次の10年に向けて 5
 ~CSRマネジメントの推進へ

すべてのお客さまの安全と安心のために..... 7

最高の舞台であるために..... 9

より楽しく、より快適にご利用いただくために...11

市民道民・地域社会の皆さまのために..... 13

お客さまの声をかたちに..... 15

環境にやさしい施設を目指して 17

生物多様性への取り組み 18

[環境管理重点テーマ①]
 CO₂排出量の削減
 および省エネルギーに努めます 19

[環境管理重点テーマ②]
 廃棄物の排出の削減に努めます 20

[環境管理重点テーマ③]
 資源循環を促進するため
 リサイクルに努めます..... 21

[環境管理重点テーマ④]
 環境問題の啓発啓蒙
 および情報発信に努めます 23

環境活動の歩み 24

資料..... 25

利用日数・来場者数・業績推移
 2010年度 開催イベント一覧
 札幌ドームの歩み・会社概要

夢と感動のステージ、札幌ドーム

札幌ドームは、2001年に北海道最大・日本最北の全天候型ドームとして誕生。ホヴァリングサッカーステージによってサッカーと野球いずれの開催も可能で、世界で唯一、「コンサドーレ札幌」と「北海道日本ハムファイターズ」というサッカーと野球の2つのプロチームの本拠地としても親しまれています。コンサートや展示会など多様なイベントも開催し、スポーツやエンターテインメントの発信拠点として多くの夢と感動を生んでいます。

[経営理念]

私たちはエンターテインメントビジネスを通して、
 常に最高のホスピタリティを追求し、
 すべてのお客さまの夢と感動を実現するステージを創造します

Our Mission, Value, Vision

[行動指針]

すべてはお客さまのために

- ・視野を広く、発想豊かに新たな価値を創造します
- ・思いを一つに、ともに楽しみ、喜びを共有します
- ・高い理想を掲げ、責任と誇りをもって行動します

私たち一人ひとりが札幌ドームです

Guiding Principles

夢と感動が、未来を創る



このたびの東日本大震災により被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。皆さまの安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

大震災当日、札幌は震度3を観測いたしました。札幌ドームではイベントが開催されておらず、館内のお客さまは観光でのご来場者など比較的少人数であったため、大きな混乱には至らず、設備的な被害もございませんでした。

しかしながら、北海道で唯一4万人を超えるお客さまを一度にお迎えすることが出来る大規模集客施設の管理者として、お客さまの安全確保の重要性を改めて肝に銘じる機会となりました。これまでも、お客さまの安全を確保するという最大の責務を果たすため、火災や地震を想定した防火防災訓練を行ってまいりましたが、この経験を教訓として、被害想定を拡大したケースにも対応し得る体制整備に向けて、現在取り組みを進めています。

また今回の大震災は、スポーツ・エンターテインメント業界にも大きな影響を及ぼしました。施設の被害などによる物理的要因だけではなく、自粛を理由としたイベントの中止や延期が相次ぎました。札幌ドームでも、北海道日本ハムファイターズやコンサドーレ札幌の試合の日程が一時延期となりましたが、たくさんの市民の皆さまから、試合の再開を待ち望む熱い期待の声をいただき

ました。私たち札幌ドームは、ファンやサポーターの皆さまに、日々の生きる喜びにつながる夢と感動の舞台を提供しているのだと改めて確信しました。

現在の日本は、震災の影響のみならず、長年にわたり厳しい経済情勢が続いているだけではなく、地域社会や人と人とのつながりも希薄となり、幸福感や満足感を得られにくい状況にあると言われています。そんな中であって、私たちは、常に夢や希望を追い求め、何かに夢中になったり、何かに感動できることの素晴らしさを、札幌ドームで繰り広げられるスポーツやエンターテインメントを通じて発信し続けていきたいと考えています。

札幌ドームを舞台に夢を実現したり、感動を得たりすることが、明日を生きる糧になる。そうして街に活気が溢れ、豊かな未来が創られていく。これこそが、私たちに課せられた社会的責任であり、果たすべき使命であると考えています。

札幌ドームは、本年6月、開業10周年を迎えました。これまで札幌ドームを支えていただきましたすべてのお客さまに心より感謝申し上げますとともに、今後とも、皆さまの更なるご期待に応えられるよう、総力を結集して邁進してまいりますので、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

長沼 修

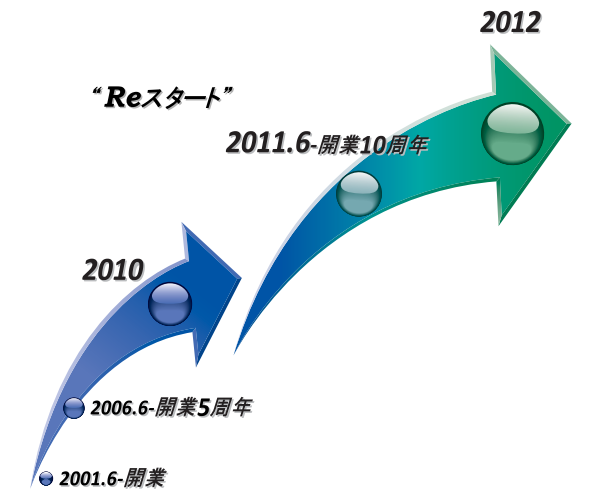
■中長期ビジョン ～次の10年に向けてありたい姿

あらたな夢と感動を生み続けるステージへ —
より一層の社会的使命と責任を果たし、地域とともに成長する企業を目指します

■中期経営方針 2012

「安定から挑戦」へ
「進化するドーム」へ
第3セクターの「ビジョナリーカンパニー」へ

ビジョナリーカンパニー：基本理念をしっかりと維持し、かつ先見性を持って進歩する企業



将来にわたり親しまれ、愛されるドームを目指して

開業からこれまでの10年間、札幌ドームでは大きな事故もなく、本年6月までに累計で2,500万人を超えるお客さまをお迎えしてまいりました。これもひとえに多くの皆さまのお力添えの賜物であると心より御礼申し上げます。

この10年間を通して、市民道民の皆さまにとって親しみのある施設、スポーツや文化の殿堂として誇りある施設に育ったとしたら、これほど嬉しいことはありません。

開業当初は、各方面から採算性への不安の声を多くいただきましたが、私たち運営会社は、可能な限り税負担を避けるとともに、絶対に赤字にしないことを至上命題としていました。その結果、2010年度の決算も含め、開業以来10期連続での黒字を達成することが出来ました。しかしながら、私たちは、決してこれらの実績に過信慢心してはいけなと考えています。

私たちは現在、2010年度から2012年度までの3年間を次の10年に向けた橋渡し期間と位置付け、中長期ビジョンを掲げるとともに、中期経営計画「Reスタート」プロジェクトを進めています。中期経営方針である「安定から挑戦」へ向けては、既存のルーティンや運用の見直しを図るとともに、新たな事業展開や新規施策に積極的に挑戦し、「進化するドーム」へ向けては、ホスピタリティの更なる充実と施設設備の維持更新や改修についての具体的検討を進め、第3セクターの「ビジョナリーカンパニー」へ向けては、市民道民の皆さまに親しまれ、広く社会に貢献する企業を目指して取り組みを推進しています。

次の10年に向けて、私たちは、札幌ドームをより充実した施設にするため、新しいステップに入っております。開業時には最新であった大型ビジョンも、今では全国で最も古いものとなりました。



こうした設備の更新には、今後20年間で数百億円を要すると見込まれており、税金の投入も不可欠となってくるでしょう。その際には、より多くの皆さまの理解が必要となりますし、私たちも企業としての体制強化をしっかりと図っていかねばなりません。

そのためにも、CSRへの更なる取り組みを通して、企業価値を向上させ、皆さまに信頼される企業として成長するとともに、将来にわたり親しまれ、愛される札幌ドームであり続けられるよう邁進してまいります。

代表取締役専務

島津 貴昭

次の10年に向けて ~CSRマネジメントの推進へ

札幌ドームにとってのCSR (基本的な考え方)

夢と感動あふれる子供たちの未来のために

札幌ドームは札幌市が建設した公の施設であり、市民道民の皆さまの財産であります。そして、私たち株式会社札幌ドームは、札幌市が55%出資して設立した第3セクターであり、指定管理者として札幌ドームの管理運営を行っています。

したがって、私たちは会社創立以来、株式会社として利益を追求していく一方で、広く公共性を担保することが求められています。札幌ドーム条例第1条には、札幌ドームの設置目的が定められていますが、私たちの事業活動はまさにその目的を果たすことを目指しており、その成果は市民道民の皆さまに還元されていかなければなりません。

つまり、私たちにとってのCSRとは、事業活動そのものであり、経営理念の実践を通じて、「スポーツの普及振興及び市民文化の向上並びに地域経済の活性化」を実現し、夢と感動あふれる子供たちの未来をつないでいくことであると考えています。

札幌ドーム条例

第1条 本市は、内外の優れたスポーツ、展示会その他の催物の開催の場を提供すること等により、スポーツの普及振興及び市民文化の向上並びに地域経済の活性化に寄与するため、札幌市豊平区羊ヶ丘に札幌ドームを設置する。

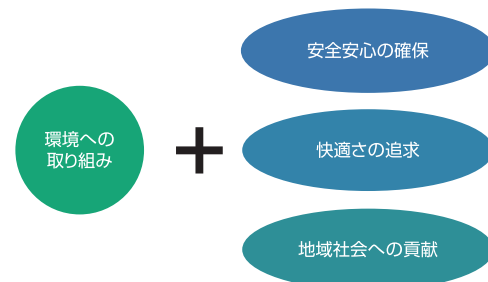


これまでの優先的なCSR活動への取り組み (テーマ)

私たちのこれまでのCSR活動への取り組みは、札幌ドームでの事業活動に伴う環境負荷をいかに低減させていくかをテーマとした「環境への取り組み」を大きな柱としてまいりました。加えて、大規模集客施設の管理者として最大の責務でありますお客さまの「安全安心」の確保と「快適」にご利用いただくための取り組みは、開業以来、継続的な優先課題として取り組んでおりますとともに、みらいシート事業を柱とした「地域社会への貢献」につきましても積極的に取り組んでまいりました。

しかしながら、私たちのCSR活動への取り組みは、決して十分ではありません。2010年度からの3ヶ年中期経営計画「Reスタート」プロジェクトでは、経営方針の1つとして、“第3セクターの「ビジョナリーカンパニー」へ”を掲げ、CSRの更なる充実を目指しています。

具体的には、「コンプライアンス・リスクマネジメントの確立」を大きなテーマとして捉え、コンプライアンス体制の整備や危機管理体制の強化に向けて、現在取り組みを進めています。また、社員との関わりについても、ワークライフバランスの推進や人材育成、働きやすい職場づくりに向けた施策を進めています。



私たちの事業活動

- | | |
|--|---|
| 貸館事業
アリーナ等のイベント利用の貸出及びイベント運営サポートを行っています。 | 観光・市民利用事業
ドーム展望台・見学ツアーの運営や草野球等の市民利用管理を行っています。 |
| 飲食・物販事業
札幌ドーム内のレストランや売店など飲食・物販の管理運営を行っています。 | 施設設備の維持管理
施設設備の適切な維持管理を行うとともに、必要な施設改良等の工事を行っています。 |
| 駐車場・チケット事業
札幌ドーム駐車場の管理運営やイベントチケットの販売管理を行っています。 | 環境への取り組み
環境にやさしい施設を目指して、よりよい環境づくりに取り組んでいます。 |
| 広告事業
札幌ドーム内の広告看板等の販売管理を行っています。 | 市民還元・社会貢献
招待事業や自主イベント開催等を通じて、市民還元・社会貢献に努めています。 |

私たちにとってのすべてのお客さま

イベントの主役となるプロスポーツ選手・アーティストの皆さま、イベントを主催される皆さま、観戦観賞のためにご来場される皆さま、観光に訪れる皆さま、札幌ドームのある街に暮らす市民の皆さま、そして、夢と感動のステージを一緒に支えていただいています多くの委託事業者さま、株主の皆さま、そのすべてが、お客さまであると考えています。



私たちのCSRイメージ図

夢と感動あふれる未来の創造へ

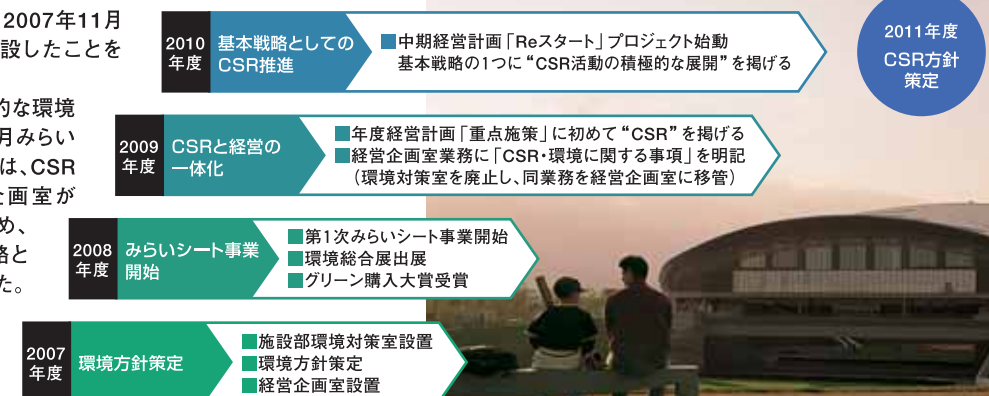


今後のCSRマネジメントの推進に向けて

私たちのこれまでのCSRマネジメントは、2007年11月に施設部環境対策室と経営企画室を新設したことを契機に始まりました。

2008年3月には、環境方針を定め、本格的な環境への取り組みを推進するとともに、同年4月みらいシート事業を開始いたしました。2009年度には、CSRと環境への取り組みを融合させ、経営企画室が所管することで、CSRと経営の一体化を進め、2010年度には、中期経営計画の基本戦略として、CSRを掲げた事業活動の展開を進めました。

2011年度におきましては、「CSR方針」を策定するとともに、今後の優先的な取り組み課題の再検討や推進体制の整備を行い、次の10年に向けて、更なるCSRマネジメントの推進を目指してまいります。



すべてのお客さまの安全と安心のために

すべてのお客さまにとって、安全が当たり前であること、常に安心して札幌ドームを楽しんでいただくことを何よりも大切にしています。



お客さまと建物の安全を守るために

札幌ドームのすべてのお客さまにとっての安全を最優先に考え、施設・設備の維持保全に努めるとともに、イベント日はもとより日常から警備体制の強化を図っています。

施設・設備の維持保全

市民道民の財産「札幌ドーム」を守り 未来へ引き継いでいくことも私たちの使命です

お客さまを安全にお迎えするために、札幌ドーム内の設備機器を集中管理し、効率的に運転状況を把握。日常から巡回点検や定期点検を実施しています。市民道民の財産「札幌ドーム」を守り、未来へ引き継いでいくために、設備の耐久年数や使用頻度を考慮した修繕や設備更新を行い、維持保全に努めています。

電気・空調・給排水設備や消防用設備などについては、「運転管理基準」を定めて適正に運転を行っているほか、「日常巡視点検基準」に従って点検にあたっています。2010年度は、場面転換時に動く座席の耐震強度について改めて点検を行い、問題がないことを確認。常用発電設備やボイラー設備機器の更新なども実施しました。



2010年度の主な計画修繕・設備更新

- 常用発電設備更新
- ボイラー設備機器更新
- 電力メーター交換
- ITV設備部品更新
- 放水銃火災検出器更新

清潔で気持ちの良い空間を提供

建物内の衛生的な環境を確保することは、お客さまの大切な健康を守ることに繋がります。適切な清掃レベルを保つように衛生管理に力を入れ、いつも清潔で気持ちの良い空間をお客さまに提供することを心がけています。



地域の防災計画の一拠点として

札幌ドームの敷地は、地域の防災計画の一拠点となっており、札幌市により災害発生時の広域避難場所として指定されています。また、第2駐車場は、緊急時のヘリポートや消防・警察の訓練場所としても活用いただいています。



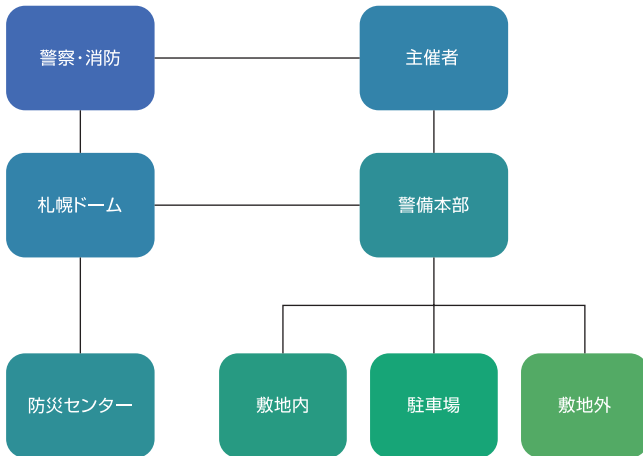
警備体制

防ぐことができるリスクは事前に回避 お客さまの安全を確保します

センサーや遠隔監視システムなどを用いた機械警備と、警備員による巡回警備を実施しています。イベント開催時には、イベントの規模やお客さまの動線などを考慮した上で、警察・消防・主催者さまとも連携してお客さまの安全を確保しています。



■ イベント開催時警備体制



暴力団の影響から札幌ドームを守ります

北海道警察・北海道暴力団追放センターにより、不当要求防止責任者専任事業者として認定。また、北海道日本ハムファイターズさまとともに、プロ野球北海道地区暴力団等排除対策協議会に加盟。誰もが安心して観戦できる環境づくりに取り組んでいます。



豊平地区の一員として

豊平地区防火管理者協議会や豊平区危険物安全協議会の会員として活動し、防火管理や危険物の適切かつ安全な管理を地域と連携して推進しています。また、2010年度は、豊平地区安全運転管理者協会より交通安全表彰を受けました。



万が一の場合にも、お客さまに安心を提供します

火災や地震、事故など、万が一の事態に備えるとともに、リスクを最小限にとどめ、不測の事態に迅速に対応する体制を整備しています。

防火・防災管理

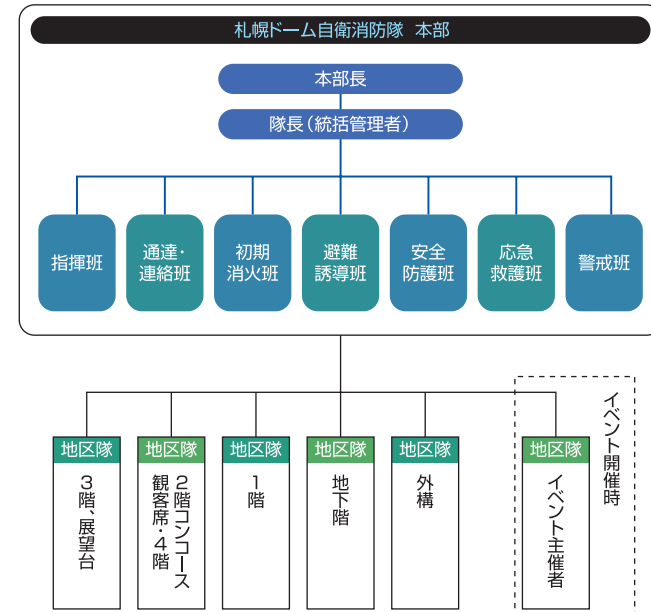
防火設備の点検や防火・消火訓練を実施

防火設備の点検を日常的に実施するとともに、札幌ドーム内で防火訓練(年2回)と消火訓練(年1回)を行って、万が一の火災に備えています。また、札幌ドーム自衛消防隊を組織し、災害発生時に備えた訓練も行っています。



北海道フットボールクラブさまや北海道日本ハムファイターズさま、委託事業者さまと合同で、防火訓練や消火訓練を実施しています。

■ 自衛消防組織



自衛消防隊本部の統括管理者および班長に必要な自衛消防業務新規講習は、全社員の約3分の1にあたる22名(2011年5月現在)が受講。シフト制の勤務に対応できる多くの社員が、必要な知識と意識を高めています。

4万人の「食」の安全を守ります

保健所や民間の衛生機関とも連携し、札幌ドーム内で販売する飲食物の衛生管理を行っています。飲食事業者さまとともに、おいしさや衛生面の両立を図っています。

さっぽろ食の安全・安心推進協定

「札幌ドーム飲食事業者協議会」は、札幌ドームで提供する飲食メニューに関する衛生管理・コンプライアンス・危機管理体制をさらに強化するため、札幌市と「さっぽろ食の安全・安心推進協定」を締結しました。



「さっぽろ食の安全・安心推進協定」は、札幌市が、「安全・安心な食のまち・さっぽろ」を目指して2009年6月に創設した制度で、札幌市内の生産者・食品事業者・食品関連団体が対象となります。本協定を締結した事業者・団体等は、食の安全・安心に関して積極的かつ自主的に取り組んでいることから、重点的に取り組んでいく事項を「マイルール」として定め、消費者に公開するとともに、年度毎の取組結果を市長に報告します。

地震対策

被害想定を拡大し、さらなる対策を検討

2009年6月の消防法一部改正を受け、震度5以上の場合には地震対策本部を立ち上げることを決定。2010年度は、地震を想定した防災訓練を実施。その後発生した2011年3月の東日本大震災を教訓に、イベント主催者さまとの連携を強化するとともに、被害想定を拡大して、より万全な対策を検討しています。



2010年7月、地震を想定した防災訓練を実施。参加者には被害状況をあらかじめ知らせないことで、臨機応変な対応を訓練しました。

2011年3月11日の対応

札幌が震度3を観測した東日本大震災発生時、札幌ドームはイベントのない通常営業日でした。観光でご来場のお客さまなどを迅速に避難誘導し、その後の観光事業や店舗の営業を中止して、ホームページなどで告知。館内の施設・設備を点検し、安全を確認いたしました。

救急救命対策

AED(自動体外式除細動器)を更新

2010年度は館内のAEDを最新機種に更新するとともに、1台追加して現在は計8台を設置しています。また、AED講習を実施し、社員と委託事業者さま26名が受講しました。



初期活動用の救命備品を整備

2010年度は自衛消防隊の地区隊が、迅速な初期活動ができるよう、各地区隊用のバールやハンマーなど救出作業のため必要な工具類も購入しました。



札幌ドーム飲食事業者協議会 マイルール

- 会員各社は、5S(整理、整頓、清潔、清掃、躰)を徹底し売店厨房等の良好な環境の保持に努めます。
- 会員各社は、食材の適切な温度管理や、異物混入を防ぐための点検を徹底します。
- 会員各社は、従業員の健康管理や身だしなみの確認を行い、従業員一人一人の衛生意識向上と徹底に努めます。
- 会員各社は、札幌ドームに来場するお客様に安心していただける「安全」な商品の提供とサービスの向上に努めます。

会員事業者

- 株式会社札幌ドーム
- 株式会社サッポロライオン
- 北海道観光事業株式会社
- 株式会社モスフードサービス
- 株式会社伊藤組
- 株式会社プリンスホテル
- 株式会社札幌後楽園ホテル
- 日本サブウェイ株式会社
- 北海道コカ・コーラボトリング株式会社
- 北海道キリンビバレッジ株式会社

最高の舞台であるために

札幌ドームは、スポーツをはじめコンサートやコンベンションなどさまざまなイベントの開催を通じて、すべてのお客さまの夢と感動を実現するため、最高の舞台をご用意しています。



トップアスリートのためのプレイングクオリティを維持しています

札幌ドームは、世界で唯一、サッカーと野球の2つのプロチームのホームスタジアム。どちらのスタジアムとしても、トップアスリートにとって最高の舞台であるように、選手たちの声に耳を傾けて全力でメンテナンスにあたっています。

Soccer

芝生管理を徹底し、まだ雪深い3月から最高の状態でシーズンを迎えられるよう整備

ホヴァリングサッカーステージという動く芝生のフィールドの管理は、非常に特殊な技術が必要となります。10年間蓄積してきたノウハウをもとに、日々、育成状況を確認。特に、雪解け時期は除雪のほかシートやヒーティングなどで外気の影響が出ないように配慮し、屋外に雪が残る3月でも最高の状態で試合当日を迎えることができます。



芝の刈り込みの長さや湿り気の状態は、現場に寄せられる声をすぐに反映。見た目の美しさにもこだわりながら、刈り込み作業などの整備を行っています。



春と秋の年2回、芝生育成調査を外部専門スタッフのサポートを受けながら実施。葉や根の育成状況の調査、土壌の化学性・物理性分析のほか、ボールを用いた反発テストなども実施しています。

Baseball

選手の鋭敏な感覚も満足させるピッチャーズマウンドなど、質の高いプレー環境を提供

野球グラウンドは、安全性とともに美観にも配慮して整備。特にピッチャーズマウンドは、グラウンドキーパーが蓄積したノウハウを生かして硬さなども細かく調整しています。コンサートやサッカーモードに対応した昇降式のマウンドのため、コンクリートの下にマウンドが降りている期間や湿度・温度などを考慮しながら、万全の整備計画を立てています。



丁寧なマウンドづくりを心がけています。2010年度は、粘土とアンツーカーをより均一に混ぜられるよう、攪拌機を購入したほか、作業効率改善のために、転圧器も購入しました。

選手が快適かつ効率的に練習できるようなバッティングケージなどを準備。また、フェンスに付いたボールなどは、手作業で丁寧に拭き取り、気持ちよく試合を迎えられるように配慮しています。



グラウンド管理スタッフ

多目的利用を支える場面転換を安全・確実に

2010年度は40回の場面転換作業を実施。イベントのスケジュールに基づき、効率的な作業日程を調整し、安全で確実な場面転換を行うことで、多様なイベント開催を可能としています。

■場面転換の流れ



野球モードからサッカーモードへの転換では、まず野球フィールドの人工芝を巻き取ります。



開閉式可動席やマウンド、ベースなどを格納し、ホヴァリングサッカーステージを屋外から移動。



ステージと旋回式可動席が90度回転し、野球の内野席とサッカーのメインスタンドを一致させて完了。

勝利のために

最高の舞台を支えていきます

トップアスリートに満足いただくプレー環境を提供することは、私たちにとって当たり前のことではありませんが、何年仕事をしていても、怪我なく試合が終わるとほっとしますし、勝利のときは、人一倍うれしいものです。これからも選手の皆さまの声に学びながら、最高の舞台を支えていきたいと思えます。



市民道民に愛される2つのプロチームを支えています

「コンサドーレ札幌」と「北海道日本ハムファイターズ」。市民道民に愛される2つのプロチームを支えるとともに、サポーターやファンの皆さまにより楽しんでいただけるように、さまざまなかたちで協力しています。

コンサドーレ札幌

1996年、札幌に誕生。開業時から札幌ドームを本拠地とし、Jリーグの中でも特に熱いサポーターとともに熱戦を展開。サポーターの皆さまには、毎年、ボランティアとしてサッカーシーズンの除雪作業に協力をいただいています。



コンサドーレ札幌支援

屋外テラスで開催される「コンサパーク」やシーズン開幕時のキックオフイベントに協力。ポケットスケジュールや館内柱巻き装飾などの制作にも協力しています。また、シーズンを通じて芝生でのトレーニングを可能にするため、チーム専用の宮の沢白い恋人サッカー場と連携し、札幌ドーム屋外サッカー練習場を貸し出し、ホヴァリングサッカーステージと同じクオリティの練習環境を提供しています。



コンサパーク



屋外サッカー練習場を貸出

ポケットスケジュール



札幌ドームMVP賞

札幌ドームは、フランチャイズチームの発展と選手のさらなる活躍を願い、2004年度から毎年、その年に札幌ドームで最も活躍した選手に「札幌ドームMVP賞」を贈呈しています。コンサドーレ札幌と北海道日本ハムファイターズの選手からそれぞれ選出し、歴代の受賞選手の記念プレートを札幌ドーム内西ゲート前に設置しています。



2009年度からはホームページでファン投票を行い、結果をもとに贈呈選手を決定

2010年度はコンサドーレ札幌の高原寿康選手と北海道日本ハムファイターズの小谷野栄一選手が受賞



アマチュアスポーツの支援にも取り組んでいます

札幌ドームは、アマチュアスポーツを支援する活動にも取り組んでいます。子供から大人まで、プロが活躍する舞台上でスポーツを楽しむ機会をサポートしています。

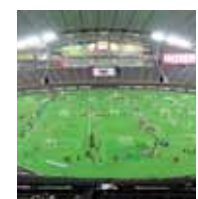
アマチュアスポーツ大会開催支援

プロ選手が活躍するあこがれの舞台上、子供たちの夢を育みます

札幌市との協定に基づき、アマチュアスポーツ大会の開催を支援しているほか、当社独自の支援も行っています。大会の運営にあたっては、開催規模を考慮しながら主催者さまと打ち合わせを行い、さまざまな面からサポートしています。

コンサドーレカップ 全道市町村サッカーフェスティバル

全国的にも例がないほど大規模な全世代対象のフットサル大会。一度に11面取れる屋内施設は道内ではほかになく、快適な環境でのプレーを可能に。2010年度はラインテープを更新しました。



FIGHTERS ジュニア王座決定戦

札幌ドームでの決勝トーナメントを目指して、全道各地の野球少年たちが参加。ジュニア用のホームランゾーンに合わせて会場を設営するなど、運営協力を行っています。



札幌ドーム青少年スポーツ育成活動

主に18歳以下の主要アマチュアスポーツ競技団体を対象として、地域のスポーツ振興と発展を目的とした技術指導、選手育成の場を提供しています。

2010年度 ■北海道高等学校野球連盟 (指導者・選手強化講習会)
■北海高校硬式野球部 (明治神宮大会出場に際しての練習)



より楽しく、より快適にご利用いただくために

ご来場いただくすべてのお客さまに、札幌ドームをより楽しく、より快適にご利用いただくために、飲食サービスの充実や自主イベントの開催など、さまざまな取り組みを行っています。



グルメやショッピングもお楽しみいただけるように

札幌ドームを訪れるお客さまに、イベントと同じくらいグルメやショッピングも楽しんでいただくことを目指して、新たなメニューやコラボレーショングッズの開発などに力を入れています。

飲食事業

ラインアップの充実を図り
お客さまに選ぶ楽しさも提供しています

道産食材のメニューなどを強化
「フード・アクション・ニッポン」の推進パートナーとして地産地消に取り組み、北海道産の食材をふんだんに使用したメニューを強化。また、お客さまからのご要望も多かったローカロリーや量控えめなメニューなども導入しています。



■フード・アクション・ニッポン

農林水産省が推進する「食料自給率向上」に向けた国民運動。趣旨に賛同した企業・団体が推進パートナーとして認定され、地産地消などの取り組みを展開します。



「スタジアム・グルメ」ガイドを制作

どの店にどんなメニューがあるのかを広く知っていただくために、2010年度から、各店舗のおすすめメニューなどを掲載した「スタジアム・グルメ」ガイドを6回発行。館内で配布しているほか、ホームページでもご覧いただけます。



フランチャイズチームの応援をさらに
楽しんでいただくための取り組みを展開

応援弁当・応援メニューを充実
コンサドーレ札幌と北海道日本ハムファイターズの応援弁当や、コンサドーレ札幌戦開催時にのみ販売する限定フードメニューなど、フランチャイズチームを応援する弁当・メニューの充実を図っています。



■フランチャイズチーム応援弁当

コンサドーレ必勝弁当は2種類。ファイターズ弁当は監督や選手の名前を付けたバラエティ豊かな内容です。



ビール半額デーを実施

日頃の感謝の気持ちを込め、ファンの皆さまにフランチャイズチームの応援をさらに楽しんでいただくためにビール半額デーを実施。2010年度は、コンサドーレ札幌戦で1日、北海道日本ハムファイターズ戦で2日間行いました。



売店事業者さまとの連携

毎月1回、すべての売店事業者さまと連絡会を開き、企画の打ち合わせや意見交換などを行っています。全国のスタジアムの合同視察も実施し、各地の取り組みを参考に、新たなサービスなどを検討しています。



クレジットカード決済を可能に

2010年度より、館内飲食店舗でのクレジットカード決済（札幌ドームメンバーズクラブ会員さま対象）ができる体制を整備し、お支払いの利便性向上を図りました。



物販事業

札幌ドームならではのグッズなど魅力ある品ぞろえを目指しています

コラボグッズを販売

コンサドーレ札幌と北海道日本ハムファイターズと共同で、それぞれのコラボグッズを開発。2010年9月のファイターズ戦では、ビールを注文されたお客さま100名に抽選でコラボレーションTシャツが当たる「札幌ドーム☆ビアフェス」キャンペーンも開催しました。



物販ワゴンをより見やすく

イベントにご来場されたお客さまにより見やすい陳列でショッピングを楽しんでいただけるよう、コンコースの物販ワゴンを一部リニューアルしました。



新たな夢と感動、楽しさ、そしてさらなる快適さの提供を目指して

札幌ドームをさらに楽しんでいただけるよう、当社が企画・運営する自主イベントを開催。また、お客さまの利便性をさらに高めるためのサービスの提供にも取り組んでいます。

自主イベント

さまざまなお客さまに楽しんでいただけるイベントを企画・運営しています

ウィンターアスレチックフィールド

冬場に思い切り走り回れる場所を子供たちに提供したいという思いからスタートした体験型イベント。「遊んで、学んで」をテーマに、2010年で4回目を迎え、親子で一緒に参加できるイベントとして多くの方に楽しんでいただいています。



ふわふわアドベンチャー

子供たちに人気のキャラクターをはじめとするさまざまな大型エア遊具が屋内アリーナいっぱいに登場。毎年、多くの親子がそろって訪れる冬休み期間のイベントとして定着しています。



展望台コンサート

札幌ドームならではの魅力を発信するイベントとして、展望台コンサートを開催。2010年度は展望台から美しい夜景を眺めながら、オペラユニット「LEGEND」の歌声をお聴きいただきました。



少年野球教室

小学3～5年生を対象に、屋内アリーナで少年野球教室を開催。北海道日本ハムファイターズOBの岩本勉さんや坪井智哉さんらがコーチとなって、子供たちに分かりやすく指導を行いました。



観光事業

観光に訪れるお客さまに札幌ドームの魅力を発信

札幌ドームをご案内する専属のアテンダントは、開催イベントや施設・設備などの新たな情報を集め、お客さまに楽しんでいただけるよう常に準備を心がけています。

「カルチャーナイト2010」に参加

札幌の文化施設や公共施設を夜間開放し、市民に親んでもらうイベント「カルチャーナイト2010」に初参加。展望台の営業時間を通常より延長し、参加した皆さまに市街地の夜景を楽しんでいただく機会を提供しました。

中国からの お客さまのため 「銀聯カード」に対応

中国から観光に訪れるお客さまのために、「銀聯カード」による決済サービスに対応。中国で最もよく使われているカードでお支払いいただけるようになりました。



チケットレスサービス「らくスルー」



Webでイベントのチケットを予約・購入し、パソコンや携帯電話で受け取ったQRコードを認証機にかざすだけでスムーズに入場できるシステムを導入しています。

Jリーグ「ワンタッチパス」

Jリーグの全試合観戦記録システム「ワンタッチパス」の導入にあたっては、当社のチケットレスサービスのインフラを活用しました。



感謝の気持ちを込めて、開業10周年記念事業を展開いたします。

2011年6月2日に開業10周年を迎えた札幌ドーム。キャッチコピーは社内公募で決定し、経営理念を端的に表すとともに、すべてのお客さまにこれまでの10年の感謝を込めました。ポスターやチラシ、記念商品パッケージなどに使用する記念ロゴマークは一般に公募し、2011年1月に採用作品を決定しました。



ロゴマークを公募
一般公募による92名144点の中から、長濱孝太さま（札幌市・会社員）の作品に決定しました。

■キャッチコピー

夢、感動、新たなステージへ
～ありがとう開業10周年！あなたと、これからも～

■「北ガスグループ 6時間リレーマラソン」



- 「グルメBINGOツアー ～ドームのグルメを食べつくせ～」
 - 「10周年記念弁当」
 - 「Sapporoサンセット・ジャズ in DOME」
 - 「札幌ドームメモリアル展」
- その他、さまざまな企画を検討しています。

市民道民・地域社会の皆さまのために

札幌ドームは、市民道民の皆さま、地域の皆さまに親しまれ愛される施設であるために、地域社会に貢献する事業にも力を入れています。



地域社会に貢献できるよう積極的に活動しています

札幌ドームは、地域社会の一員として、未来を担う子供たちのための事業や、札幌の文化・スポーツ支援にも積極的に取り組んでいます。

観戦招待事業「札幌ドームみらいシート」

スポーツへの関心を高めるために子供たちを招待 好評のうちに第1次事業を終了いたしました

「札幌ドームみらいシート」は、「初めての札幌ドーム」をコンセプトに、札幌ドームで開催されるコンサドーレ札幌と北海道日本ハムファイターズの公式戦に札幌市内の小学校3年生とその保護者さまを招待するプロジェクト。子供たちがスポーツへの関心を高め、地域・学校・家族の絆が深まることを期待して各試合25組50名を抽選で招待。2008～2010年の3年間の第1次事業で208校7,300名の皆さまが試合を観戦しました。2011年3月からは、第2次事業を新たにスタートしました。



せんががびび見えうれしかた
でもほく札幌ドームで試合
がしたいとおもいました。

初めて見ておどろきました
プロ野球はすごかった
また見たいです。

札幌ドームに野球も見に行き
おにになって野球がたいむにやました。

うれしかった。またみにいきたい
はじめにキャッチもみこ
おまももしくかった。

ハハハと見れて
とっても楽しかったです。

招待後に実施したアンケートには、子供たちからの感想やお礼の言葉などうれしいメッセージが数多く書かれていました。

■第1次 札幌ドームみらいシート事業 ご招待実績(2008年～2010年)

・コンサドーレ戦……………25試合
・ファイターズ戦……………154試合
208校 計7,300名様

【特別ご招待】

・コンサドーレ戦……………2試合
・ファイターズ戦……………13試合
養護施設および
母子生活支援施設 200名様
市内公募 550名様

計8,050名様

児童養護施設や母子生活支援施設の子供たちを特別招待

第1次事業が2010年8月で終了するにあたり、本事業の締めくくりとして市内の児童養護施設や母子生活支援施設などの子供たちを「札幌ドームみらいシート特別招待」として招待。計4試合・200名さまを札幌ドームへお招きしました。



こどものひろば「キッズパーク」

札幌ドーム3階スペースにある「キッズパーク」は、子供たちが元気に遊べる大型複合遊具。イベントが開催されない日には、無料で利用いただくことができ、多くの地元の子供たちにぎわっています。



寄付・義援金活動

自主イベント「ウインターアスレチックフィールド」の収益金の一部を北海道新聞社社会福祉振興基金に寄付しているほか、拾得物のうち、お預かり期間が切れ、当社に権利が発生した現金は、赤い羽根共同募金や日本赤十字社に寄付しています。また、東日本大震災の被害に遭われた皆さまへの義援金支援にも取り組み、3月20・21日に開催されたプロ野球オープン戦の当社収益相当額を日本赤十字社を通じて寄付するとともに、館内に募金箱を設置して協力を呼びかけています。

町内会活動

地域に密着した活動を積極的に進めています

町内会の一員としての活動にも積極的に参加しているほか、近隣の12,800世帯を対象に、札幌ドームでの開催イベントの情報などを掲載した「札幌ドーム イベントニュース」を配布しています。

- 地元町内会主催「花ランド事業」への協力
- 地元町内会主催夏祭りなどへの賞品提供
- 豊平区成人の日への協賛
- 冬季ボランティアサポートプログラム参加(周辺歩道の砂まき、除雪など)

■ウェルカムキャンドル 2010
手作りのアイスキャンドルに火を灯し、札幌ドーム前広場を彩るイベントに町内会の皆さまと共同で取り組みました。



■交通安全街頭啓発への参加
札幌ドーム周辺の国道に、町内会の皆さまと一緒に社員が旗を持って立ち並び、ドライバーに交通安全を呼びかける街頭啓発活動に参加しました。



市民の皆さまにご利用いただくための事業を積極的に展開しています

札幌ドームの屋内アリーナや屋外サッカー練習場などを市民の皆さまにもご利用いただく事業を展開。地域の皆さまの健康のお役に立てるようにトレーニングルームも運営しています。

屋内アリーナ

屋内アリーナは、市民の皆さまの草野球などにもご利用いただいています。プロ野球選手が使用していると同じグラウンドでプレーすることができます。



大型映像装置もご利用いただけます。



ランニング・ウォーキングのコースとしてアリーナを無料開放

2010年10月11日の体育の日に、屋内アリーナをランニングおよびウォーキング用の特設コースとして無料開放。市民利用の新たな展開として検討してきたランニング・ウォーキングの機会を提供しました。



屋外サッカー練習場

天然芝と人工芝の2面の屋外サッカー練習場をご利用できます。2010年度は、より安全にご利用いただくための環境整備を行ったほか、プロ野球などの一部大規模イベントの開催時にも駐車場をご利用いただけるようになりました。



安全のため、屋外サッカー練習場周辺の側溝にカバーを取り付けました。

ホヴァリングサッカーステージの市民利用を検討、実現へ

プロサッカーの試合が開催される天然芝のホヴァリングサッカーステージを、屋外に出ている状態で市民の皆さまにご利用いただくことを検討。2011年度からご利用いただけるようになりました。



トレーニングルーム

マシンの更新やレイアウトの変更でより利用しやすい環境に

各種トレーニングに対応できるマシンをそろえ、トレーナーのアドバイスも受けられるトレーニングルームは、地域の皆さまの体力づくりの場として浸透しています。2010年度はマシンの一部を更新してレイアウトも変更。利用頻度の高い酸素マシンを増やしました。



■アップライトバイク
こぎ出しが軽いので、脚力の弱い方でも使いやすくなりました。



■トレッドミルファン(送風)機能もついていて、快適にランニングをさせていただきました。

「無料開放」運動教室を実施

日頃ご利用いただいているお客さまへの感謝と、より多くの皆さまにご利用いただくきっかけになるように、2010年度は無料開放を2日間実施。体力測定やピラティスの運動教室も開催しました。

教育支援

地元小学校の授業協力 大学への講師派遣なども実施

地元小学校の授業協力をしているほか、大学の授業に講師として社員が招かれることもあります。

■地元小学校への授業協力

小学校の総合学習などでは札幌ドームへの関心が高く、各種問い合わせに対応しています。資生館小学校での「公共施設の役割」を学ぶ授業には、社員も参加しました。



札幌の文化・スポーツ支援

社会貢献の一環として、札幌の文化・スポーツイベントや団体に対する支援にも取り組んでいます。

文化イベントへの協賛

- YOSAKOIソーラン祭り
- SAPPOROショートフェスト
- さっぽろオータムフェスト
- ミュンヘンクリスマス市 in Sapporo
- さっぽろ雪まつり
- カルチャーナイト
- 道新UHB花火大会

文化団体への支援

- 札幌交響楽団維持会員
- 北海道国際音楽交流協会賛助会員

スポーツイベント・団体への支援

- 北海道マラソン
- 宮様スキー大会後援会員
- ノルディア北海道賛助会員

■てくてくウォーキング

ウォーキングを楽しむ「ウォークさっ歩ろ」事業の一環として、札幌ドーム内などをコースに開催された豊平区主催の「てくてくウォーキング」。スケジュール調整や運営などの協力にあたりました。



お客さまの声をかたちに




お客さまの声は、私たち札幌ドームにとって貴重な財産です。私たちにお届けいただいた声を少しでもかたちにできるように、学ぶ姿勢を持って、真摯に耳を傾けています。



お客さまからの声を届きやすくするために

お客さまにお寄せいただく声に丁寧かつ真摯に対応できるように、電話窓口として専門スタッフで構成されたコールセンターを設けています。ホームページからのお問い合わせ、札幌ドーム内に設置したコミュニケーションコーナーからは手書きでご意見をお寄せいただけます。

お客さまとのコミュニケーション窓口

<p>コールセンター</p>	<p>イベントのない通常営業日には、9:00~17:30、大規模イベント開催日には、館内からお客さま全員がお帰りになられるまで、お電話を承っています。イベントスタッフと連携しながら、お問い合わせやご意見に対応しています。受電件数とご意見の内容については電子化し、その日のうちに全社員に配信されます。</p> <p>[2010年度受電件数:37,987件]</p>	 <p>年間37,987件のお電話のうち、お問い合わせやすぐに現場での対応が可能となったご意見を除き、十分な検討を必要とする170件のご意見の内訳は、イベント運営に関するご意見55.3%、施設・設備に関するご意見20%、飲食物販に関するご意見9.4%、その他15.3%でした。</p>
<p>ホームページ</p>	<p>札幌ドームの公式ホームページからは、お問い合わせとご意見に分けてメッセージを送信することができます。十分な検討を必要とするご意見については、全社員に配信されます。</p> <p>[2010年度のメッセージ受信件数:746件]</p>	 <p>年間746件のメッセージのうち、お問い合わせやすぐに現場での対応が可能となったご意見を除き、十分な検討を必要とする47件のご意見の内訳は、イベント運営に関するご意見40.4%、施設・設備に関するご意見27.7%、飲食物販に関するご意見12.8%、その他19.1%でした。</p>
<p>コミュニケーションコーナー</p>	<p>ご意見をその場で記入し投函いただけるよう、コミュニケーションコーナーを館内に3ヶ所設置しています。回収されたご意見は電子化し、全社員に配信されます。</p> <p>[2010年度の投函件数:177件]</p>	 <p>年間177件のご意見をご投函いただきました。イベント運営に関するご意見37.9%、施設・設備に関するご意見32.2%、飲食物販に関するご意見21.5%、その他8.4%でした。</p>
<p>各種アンケート</p>	<p>さまざまなかたちで札幌ドームをご利用いただいたお客さまにアンケートをお願いし、参考にさせていただいています。</p> <p>アンケート実施例</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「トレーニングルーム」をご利用のお客さま ■「自主イベント」にご来場のお客さま ■「みらいシート」でのご来場者さま ■「観光」でのご来場のお客さま ■札幌ドームメンバーズクラブ会員さま 	<p>札幌市オンブズマン</p> <p>公の施設の指定管理者として、札幌市オンブズマン条例に基づき、市民の皆さまからご意見をいただいた場合には、オンブズマンの調査に協力し、誠実に対応いたします。</p>

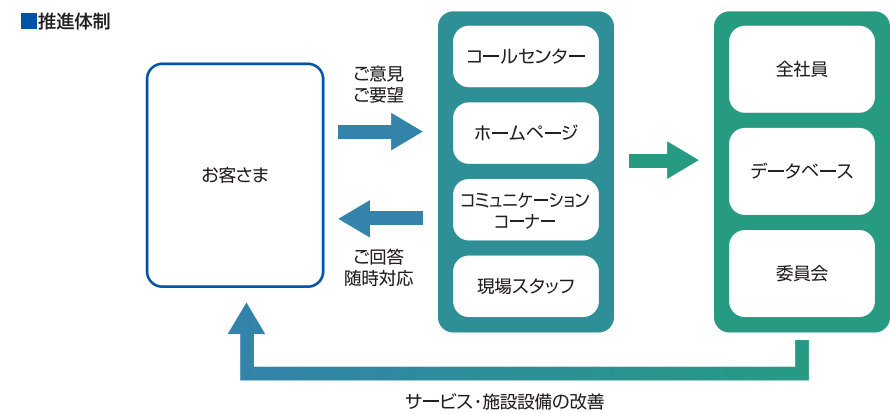
私たち札幌ドームスタッフも、委託事業者の皆さまも、コミュニケーションの重要な窓口。「一人ひとりが札幌ドーム」であることを忘れず、誇りを持ちながら、お客さまの声に学んでいます。

				
---	---	---	--	---

現場スタッフ 委託事業者さまとともに

お寄せいただいたお客さまの声を生かすために

コールセンター、ホームページ、コミュニケーションコーナーに寄せられた貴重なご意見は、電子化して経営層を含めた全社員に配信。すべてデータベース化し、十分な検討が必要なご意見については、委員会を開催して改善に向けた議論を重ねています。すぐに解決できないご要望などについては、中長期的な課題として共有し、継続的な調査・検討を行っています。




2010年、お客さまの声がかたちとなりました

お客さまの声

洋式トイレを増やしてほしい

利用頻度の高いトイレを洋式化しました

他施設も調査し、洋式トイレを増やすことで個数を減らすことのないよう、レイアウトもしっかりと検討。2010年度は、利用頻度の高い1階コンコースの売店横のトイレ2ヶ所を洋式化しました。




お客さまの声

トレーニングルームを年末も利用したい

トレーニングルームを12月30日まで営業しました


年末も継続してトレーニングを実施したいというお客さまの声を受けて、12月30日17時まで営業しました。



ありがたい声を励みに

お客さまに元気をいただいています

ご高齢の方から高校生まで、健康づくりやリハビリ、ダイエット、各種競技大会に向けた体づくりなど、目的もさまざまなお客さまとコミュニケーションを図りながら、適切にアドバイスすることを心がけています。「最近調子がいい」「マラソン大会でベスト記録が出た」などのうれしい報告が何よりのやりがい。お客さまにこちらが元気をいただいています。




トレーニングルームトレーナー (札幌環境サービス株式会社)

お客さまの声

トイレに手洗い石鹸を置いてほしい

ポンプ式の手洗い石鹸を設置しました

1Fコンコースなどのトイレ20ヶ所に合計96個のポンプ式の手洗い石鹸を設置いたしました。




お客さまの声

駐車場退場時の混雑を解消してほしい


駐車場から2列で退場できるようにしました

大規模イベントの終了後、封鎖している入場口も退場口として使用することで、混雑の緩和を図りました。



喜びの言葉で意欲がわきます

多い時には1日に3~4回、50分のツアーのご案内を担当します。お客さまの年齢、人数、興味に合わせて内容を工夫し、限られた時間の中で、できるだけ札幌ドームの魅力をお伝えし、楽しい時間をご提供できるようにしています。アリーナにご案内した時に感動の声を上げていただいたり、「楽しかった」「面白かった」と言っていたり、ととてもうれしいです。丁寧なお礼状をいただくこともあり、ますます意欲がわいてきます。



ドームツアーアテンダント

- これまでの主な取り組み
- 2002年度
 - スタンド席階段に手すり設置
 - 2003年度
 - コンコース等に水飲み場増設
 - 視認性の高いバックネットに改良
 - コンコースにテレビモニター設置
 - 優(やさ)し〜と設置
 - 2004年度
 - 屋外チケット売り場増設
 - 2Fコンコースフードワゴン設置
 - 1Fコンコース照明増強
 - 2005年度
 - 公式ホームページリニューアル
 - トレーニングルームで運動教室開始
 - 2Fコンコースにチケット売り場増設
 - 2Fコンコースにベビーカー置き場設置
 - 2006年度
 - キッズパーク・ファミリーシート・ベビーコーナー設置
 - トイレに、ベビーキープ、ユニバーサルシート、幼児用便座設置
 - 案内サインの大幅リニューアル
 - バイク駐輪場整備
 - 授乳室リニューアル
 - 2007年度
 - 展望台に望遠鏡設置
 - 少年野球用外野フェンス購入
 - 車いす席の幅・通路改良
 - 洋式トイレの洗浄式便座化
 - 身体障がい者等の送迎車両による敷地内での乗降の受け入れ開始
 - 2008年度
 - シャトルバス新さっぽろ発着便追加
 - 喫煙室の換気能力増強・扉改良
 - 屋外照明追加
 - 屋外人工芝サッカー場にベンチゲージ設置
 - チケットレスシステム「らくスルー」導入
 - プレイヤーズビューシート設置
 - 2009年度
 - コミュニケーションコーナー設置
 - コンコース売店増設
 - ジュニア用サッカーゴール購入
 - バス停口階段に滑り止め用ゴムチップ敷設
 - トイレ誘導サイン改良
 - 2Fコンコースのチケットブース窓口増設

環境にやさしい施設を目指して

札幌ドームは「環境方針」「環境行動指針」を策定し、お客さまのご協力をいただきながら、みらいの子供たちのために「環境にやさしい施設」を目指す活動に取り組んでいます。

〔環境方針〕

私たちは、みらいの子供たちに美しい地球を残し、札幌ドームを環境にやさしい施設として維持し続けることを使命として、訪れるすべてのお客さまとともに、よりよい環境づくりに向けて取り組めます。

〔環境行動指針〕

1. 私たちは、事業活動全般が環境側面に開く環境関連法規、規制、協定等を順守します。
2. 私たちは、事業活動全般に関わる環境側面として、以下のことを環境管理重点テーマに取り組みます。
 - ① CO₂排出量の削減および省エネルギーに努めます
 - ② 廃棄物の排出の削減に努めます
 - ③ 資源循環を促進するためリサイクルに努めます
 - ④ 環境問題の啓発啓蒙および情報発信に努めます
3. 私たちは、環境方針達成のため、札幌ドームで働く全従業員に周知徹底を図るとともにすべてのお客さまに理解と協力を求めます。

〔環境目標〕

札幌ドームの環境数値目標は「10・20・30」です。

- ① CO₂排出量を2006年度より10%削減します。
- ② 一般廃棄物の排出量を2006年度より20%削減します。
- ③ リサイクル率を30%以上にします。

上記すべての数値目標を2012年度までに達成します。

2010年度、上記②③につきましては、実績が目標を大幅に上回ったため、2011年度から、下記のとおり上方修正いたしました。

- ② 一般廃棄物の排出量を2006年度より35%削減します。
- ③ リサイクル率を45%以上にします。

札幌ドーム環境コンセプト

札幌ドーム ECO MOTION
～ひとりひとりがエコプレイヤー～



ひとりひとりがエコプレイヤー
SAPPORO DOME
札幌ドーム 環境シンボルマーク

さっぽろエコメンバー



グリーン購入ネットワーク



チャレンジ25



札幌市生活環境の確保に関する条例

札幌ドームは、「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づく環境保全行動計画書の策定対象事業者として、二酸化炭素の排出の抑制その他の環境への負荷低減に取り組む環境マネジメントシステム（EMS）を運用しています。

生物多様性への取り組み

開業から10年、札幌ドームは豊かな生態系を育てています

札幌ドームは、開業以来、生態系に配慮した広大な敷地の維持管理に取り組み、30種を超える鳥たちが暮らす緑豊かな「スポーツの庭」を実現しています。

「スポーツの庭」札幌ドーム

白旗山から連続する豊かな自然を背景とした農耕地と商業・住宅地が群をなす都市の境界に位置する広大な敷地は、ガーディング（庭造り）の手法により、農耕地から都市を緩やかにつなぐ「スポーツの庭」に生まれ変わりました。

■建設前



■2010年



エコジカルプランニング～建設前よりも、豊かな生態系を築く

食物連鎖の上位に位置する「鳥」の視点から、建設予定地を含む周辺地域の生態系を分析。鳥が暮らしやすい環境づくりを基調として、森林や水辺、草地など11種の緑地植生モデルが導入されました。

農業試験場跡地の31haの土地は、広葉樹林を中心としたボタニカルゾーン、調整池の周りに湿性草地・乾性草地・湿地林を配置して水辺環境を確保したビオトープ、ドームを取り囲む自然草地などで構成され、緑と生き物を育む下地が整えられました。



「スポーツの庭」を守る取り組み

生き物たちの暮らしを守りながら、景観の美しさと4万人のお客さまの安全性を確保するために、散策路などの草地の刈り込みは、草花が実をつける時期を避け、また植栽の剪定や補強は、倒木の危険性がないか、樹木医とも相談しながら実施。集中豪雨による河川の増水を一時的に受け止める調整池の泥さらいは、トンボの住処であるヨシやガマを残しながら行っています。



人と鳥たちが、ともに憩う場へ

開業から10年が経ち、植栽された若木が木へと成長するに従い、ヒガラやアカハラなど、森を好む鳥たちが次々に札幌ドームを訪れるようになりました。2010年夏の調査では、建設前の1997年と比較し、鳥は1.6倍、チョウは3.3倍、トンボは4.4倍と着実にその種類が増え、豊かな生態系が育まれています。札幌ドームを彩る鳥たちの声と四季それぞれの顔をのぞかせる花々や豊かな緑は、「スポーツの庭」を訪れる人々の歩みを緩らせています。



ビオトープ（水辺・池）

建設前にはなかった水辺環境を調整池を利用して整備した結果、トンボなどの水辺を好む生き物が住処とするようになりました。初夏には、ガマやヨシの間から、ヒナをつれたマガモの姿も見ることができます。



■2001年



■2010年



ボタニカルゾーン（広葉樹林）

自生していた樹木をできるだけ残した上で、植樹も行いつくり上げてきた札幌ドームの「森」。木々が大きく成長し、森を好む鳥やチョウが暮らすようになりました。国道沿いのボタニカルゾーンをはじめ、敷地内には全部で8,000本もの木があります。



■2001年



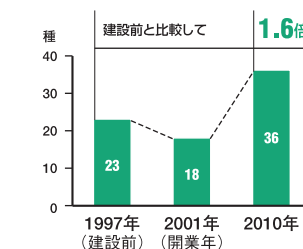
■2010年



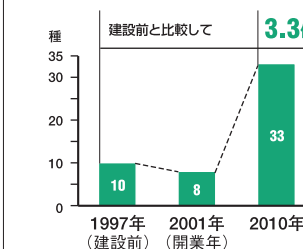
森や水辺の環境が整ったことで札幌ドームの建設前よりも生き物の種類が増えています

札幌ドームの建設前に比べ、開業年には一度、生き物の種類が減ったものの、木々の成長につれて、種類が増えてきています。建設前よりも生き物を増やす計画は、順調に成果を上げています。

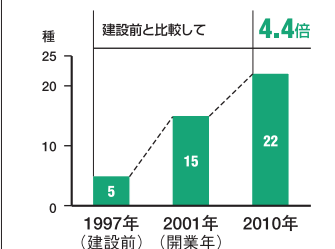
鳥の種類の推移



チョウの種類の推移



トンボの種類の推移



協力:大成建設株式会社



CO₂排出量の削減および省エネルギーに努めます

二酸化炭素(CO₂)排出量の削減と省エネルギーを推進するために、環境にやさしい技術や工夫を数多く導入しています。

〔環境目標〕CO₂排出量を2006年度より10%削減します。

省エネ型の設備を積極的に導入しています

二酸化炭素の排出量を削減するために、2007年より省エネルギー型の給湯器「エコキュート」をはじめ、省エネ型除雪車などを導入。省エネ設備の導入や制御改良などを積極的に進めることで、省エネルギーを推進しています。



ペリメーターヒーターのインバーター化

2010年度は、窓からの冷気の侵入を防ぎ、効率良く快適な暖房環境を得るために設置しているペリメーターヒーターのインバーター化工事を実施。気温に合わせて運転をより細かくコントロールできるようになったことで、省エネルギー効果を上げることができました。



「地産地消」の取り組みでCO₂排出量の削減へ

農林水産省が推進する食料自給率向上に向けた国民運動「フード・アクション・ニッポン」に推進パートナーとして登録。館内で販売する弁当やレストランメニューに、北海道産の食材をこれまで以上に豊富に使用する取り組みをスタートしました。「地産地消」を積極的に推進することによって、食料輸送に伴う二酸化炭素排出量を削減することにもつながっています。



- 道産食材使用の一例
- 米 : 道産米使用
 - 麺 : 道産小麦麺使用
 - パン : 道産小麦使用
 - 牛肉 : 各地産の北海道牛使用
 - 豚肉 : 各地産の北海道豚使用
 - 卵 : 道産鶏卵使用
 - ジャガイモ : 道産ジャガイモ使用

省エネを考えた照明モードを緻密に制御

イベント開催、グラウンド整備、ドームツアー、清掃など、それぞれの利用状況に応じた照明モードを選択し、緻密な制御を行って省エネルギーに努めています。



2009年5月より、プロ野球終了後のグラウンド整備時、アリーナ照明モードの見直しを実施しています。これにより、プロ野球開催時の電力消費量が約5%削減されています。



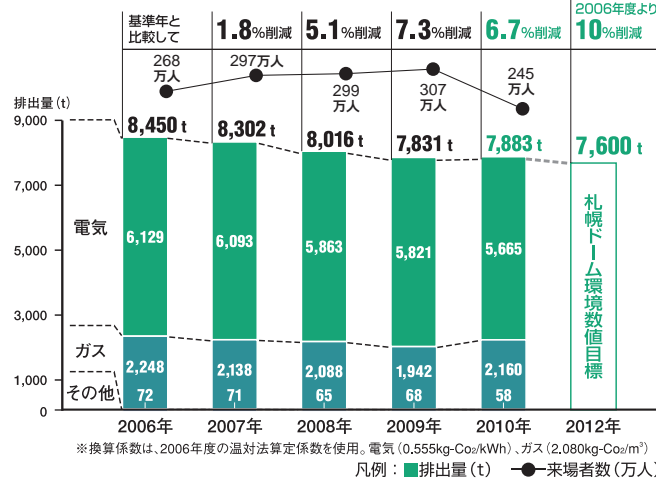
ごみを圧縮して減容化

回収した紙カップ、ブリックパック、紙トレイ・弁当外箱、ペットボトルは、圧縮して減容化。これにより、ごみの搬送回数を全体で3分の1に減らしています。輸送効率の向上を図ることで、二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいます。



ごみ圧縮機 ▶
2008年3月に導入。
◀ 圧縮したごみは約10分の1の容積に。(紙カップの場合)

CO₂排出量の推移



イベント数が前年と比較して減少し、またペリメーターヒーターのインバーター化工事や照明モードの綿密な制御などを実施して省エネに努めましたが、夏場のイベント開催時の気温が高かったことが影響し、前年に対し微増となりました。

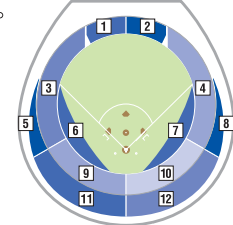
広報誌などの印刷にグリーン電力を導入

札幌ドームが発行する広報誌などの印刷に、北海道の風力発電によるグリーン電力を利用。自然エネルギーによる発電は環境負荷が少なく、二酸化炭素排出量の削減を推進しています。



スタンド席を局所空調

アリーナすべての冷暖房では多くのエネルギーが必要なため、スタンド席の足元から冷気・温風を吹き出し、座席周辺に的を絞った局所空調を行っています。さらに、スタンド全体を12に区分した空調ゾーンにより観客数に応じた冷暖房で省エネルギーを図っています。



館内の空調ゾーン図▲



客席下の吹出口

自然換気でエネルギーを抑制

天井の開閉式パネルと、オープンアリーナ・屋内アリーナを仕切る開閉式扉の開口部の操作でアリーナ内を自然換気し、冷房用エネルギーの消費を抑えています。



「バイオマスプラスチック」製カップの導入

2008年3月より、各種ドリンク販売用にとらもちのデンプンを原料にした「バイオマスプラスチック」製カップを導入。



廃棄物の排出の削減に努めます

ごみの分別回収などお客さまにも大きな理解と協力をいただきながら、廃棄物の排出を削減する取り組みを積極的に進めています。

〔環境目標〕一般廃棄物の排出量を2006年度より20%削減します。
※2011年度から、目標数値を35%削減に上方修正いたしました。

芝ごみの分別で埋め立て廃棄物を削減

天然芝サッカーグラウンド(2面)の芝の根切り*作業で発生する芝・根と砂が混じったごみは、スタッフが手作業で分別。芝や根だけを焼却ごみとし、砂はサッカーグラウンドのメンテナンスの際に再利用することで、廃棄物の量を大幅に削減しています。(2007年秋より実施)



*根切り
良質な芝の育成には欠かせない作業で、札幌ドームでは年2回程度実施

2010年度は廃棄物の排出量が12.5tとなり、2006年の8分の1に削減できました。

野球グラウンドの土の再利用を実施

2009年より野球グラウンドのマウンドで使用した土を再利用。1年間に使用するアンツーカー4t・粘土1tの中から再利用可能な「エコ土」1tを確保し、廃棄物を削減しました。



ごみの分別回収を推進

2007年よりリサイクルポストを設置し、お客さまにイベント時のごみの分別をお願いしています。分別回収にご協力いただくことで焼却するごみの量を削減しています。2010年3月からは分別方法を一部変更してさらにリサイクルを推進、いっそうの廃棄物削減に取り組んでいます。



館内各所にリサイクルポストを設置してごみを分別回収。多くのお客さまの協力でリサイクルに取り組み、廃棄物の排出の削減は確実に進んでいます。

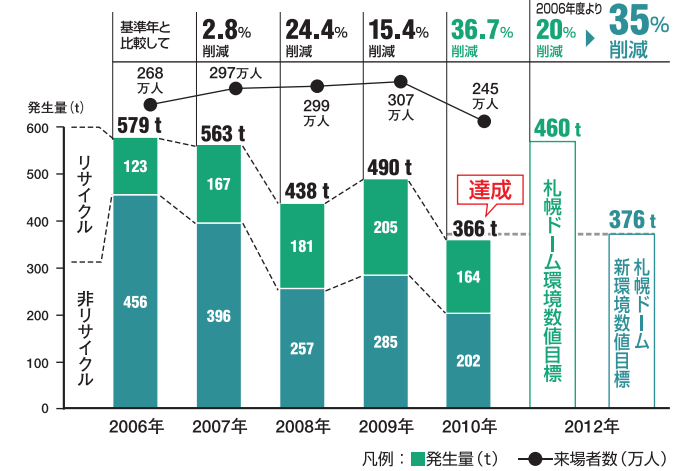
札幌・サンサンプロジェクト

札幌市は、二酸化炭素の排出削減のために太陽光発電の導入を積極的に進め、市民、事業者、市が連携し、市内に合わせて約1,000kWの太陽光発電を導入する「札幌・サンサンプロジェクト」を実施。その一事業として、札幌ドームの敷地内フェンス上部に全長326mにわたって太陽光パネル432枚を設置しました。発電量は年間6万kWhを見込み、二酸化炭素に換算すると約26tの削減に相当します。2011年3月1日から本格稼働しています。

1階南北連絡通路に太陽光発電の仕組みや発電量・日射量などが表示される発電量表示モニターが設置されています。



一般廃棄物の発生量の推移



来場者数が前年と比較して62万人減少し、飲食容器などのごみ大幅に減少。また、芝ごみ分別や野球グラウンドの土の再利用などを引き続き実施したことにより、目標を大きく上回りました。

ホームページなどの活用で印刷物を削減

ホームページなどを積極的に・効果的に活用することによって、広報誌などの印刷物の見直しを行い、紙の消費量の削減を図りました。

売店のレジ袋削減を進めています

コンコース売店・ワゴン売店では2007年2月より原則としてレジ袋をお渡しせず、必要なお客さまのみお渡しすることでレジ袋削減を進めています。



来場されるお客さまの理解が進み、レジ袋削減の取り組みも浸透しています。



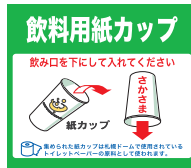
資源循環を促進するためリサイクルに努めます

お客さまとイベントの主催者・委託事業者さまの協力のもとに、紙カップや紙トレイ・弁当外箱などのリサイクルに取り組んでいます。

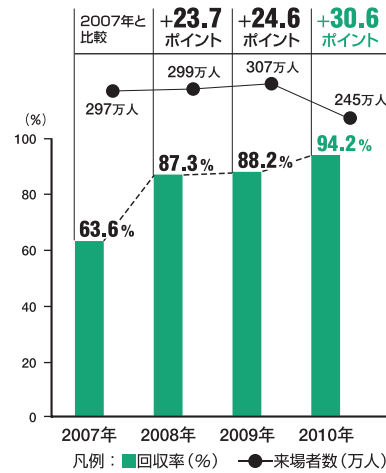
[環境目標] リサイクル率を30%以上にします。
※2011年度から、目標数値を45%以上に上方修正いたしました。

紙カップのリサイクル

ソフトドリンクやビールなどの飲料用紙カップは、2007年7月から本格的に分別回収をスタート。リサイクルポストを利用して分別をお願いし、多くのお客さまのご協力によって高い回収率を達成しています。2010年度は一段とご協力をいただくことができ、回収率は94.2%の高い数値となりました。集めた紙カップは製紙工場に運び、トイレットペーパーの原料としてリサイクルしています。



紙カップ回収率の推移



紙カップ 約60個 = トイレットペーパー 1個

2010年度は、約138万個の紙カップの分別回収にご協力いただき、約23,000個のトイレットペーパーに生まれ変わりました。札幌ドーム館内のトイレでは、このトイレットペーパーを使用しています。



事業系ごみの分別回収も協同で推進しています

イベント主催者さま、委託事業者さまの協力を得て、事業系ごみの分別回収にも取り組んでいます。

古紙	飲料容器	その他
<ul style="list-style-type: none"> 新聞・OA紙・チラシ ダンボール 雑誌 シュレッダーくず 紙カップ 紙トレイ・弁当外箱 等 	<ul style="list-style-type: none"> びん 缶 ペットボトル 一斗缶 酒類びん 	<ul style="list-style-type: none"> 資源化ごみ 生ごみ 剪定枝

ダンボールのリサイクル

札幌ドーム内の飲食店舗などから出る不要なダンボールは、各委託事業者さまに協力をいただいて、再びダンボール紙としてリサイクルするために、まとめて回収を行っています。



2010年シーズンより「紙製品・雑がみ」に変更

紙トレイ・弁当外箱に加え、これまで「一般ごみ」としていた新聞・チラシなども「紙製品・雑がみ」として2010年シーズンから分別を開始。さらにリサイクル率の向上を図りました。



新しく分別回収を開始したもの

新聞 ちらし 紙袋 紙ナフキン 紙バック

分別回収にご協力いただいた「紙製品・雑がみ」は、再生紙やダンボール紙の原料としてリサイクル。これにより、焼却ごみの量を減らしています。



屋外用「リサイクルポスト」を製作

屋外テラスなどでのイベント開催時のために、新たに屋外用のリサイクルポストを製作しました。



ビン・缶・ペットボトルのリサイクル

札幌ドームでは、ご来場されるお客さまにビン・缶・ペットボトルなどの飲み物容器の持ち込みをご遠慮いただいています。持ち込み飲料は入場時に紙カップに移し替え、回収したビン・缶・ペットボトルはリサイクルを行っています。



飲食売店の野菜くずなどは、堆肥や飼料に活用しています

飲食売店などで調理に使った野菜くずなども回収し、リサイクルを進めています。生ごみ処理機で堆肥化し、敷地内の植栽などに利用しているほか、専門業者に委託して家畜の飼料としても活用されています。

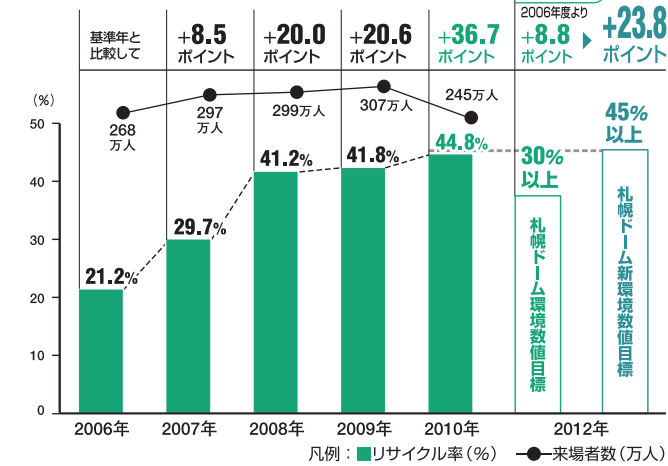


剪定枝・酒類びんも分別回収

2009年より剪定枝と酒類びんの分別回収に取り組んでいます。剪定枝は植栽チップなどとして、酒類びんはカレット(ガラスびんの原料)などにリサイクルされます。

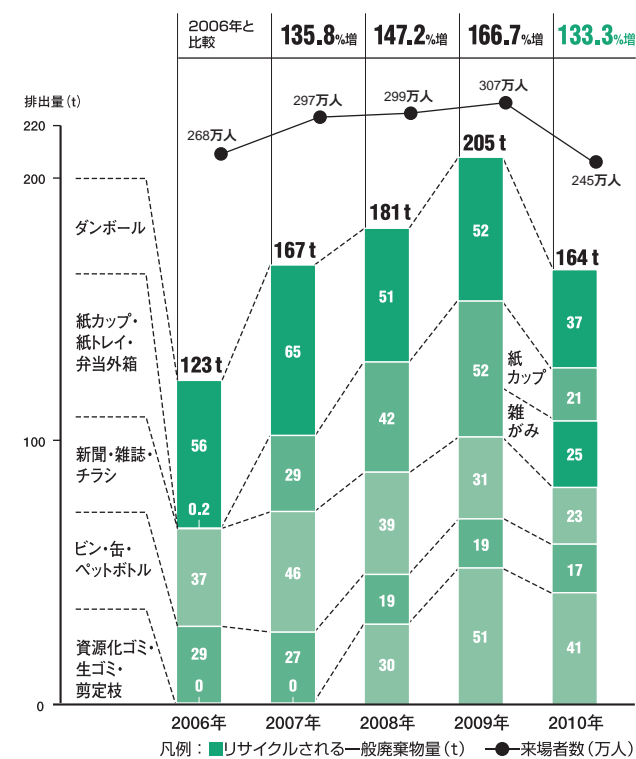


リサイクル率の推移



ご来場のお客さまのご協力のおかげで、年々リサイクルが進み、分別項目の一つである紙カップのリサイクル率は、94.2%と高い数値になりました。また、2010年3月より開始した「雑がみ」回収も浸透し、目標を大幅に上回りました。

リサイクルされる一般廃棄物量の推移



環境負荷の低減に役立つグリーン購入やエコマーク商品、印刷用紙の変更などを促進

事務用品やイベント用の備品などは、環境負荷の低減に役立つ商品やエコマーク商品、印刷用紙の変更などを積極的に購入しているほか、各種印刷物の用紙は道産間伐材を使用した紙などに変更しています。

札幌ドーム「リサイクルポスト」

※下記の4種類に、ごみを分別回収しています



リサイクルの流れ

分別品目	リサイクル品目
新聞・OA紙・チラシ	再生紙
ダンボール	ダンボール紙
雑誌	再生紙
紙カップ	トイレットペーパー
雑がみ	再生紙
びん	再利用・カレット※等
缶	鋼材
ペットボトル	繊維・ペットボトル
一斗缶	鋼材
酒類びん	カレット※等
資源化ごみ	固化燃料
生ごみ	堆肥・飼料
剪定枝	植栽チップ

※ガラスびんの原料

環境に配慮した容器や食材を使用した弁当を企画、発売しました

地球にやさしい「エコ弁当」

「環境」に配慮することをコンセプトにした新たな弁当を企画しました。ごみの減量化をはじめ二酸化炭素排出量の削減、リサイクルにつながる容器や食材を使用しています。

■パエリアボール
ごみの減量化を考え、バラや中仕切りをせずに作りました。エコバルブ®で作られたスプーンを使用しております。



※製造工程において塩素ガスを使わない環境配慮型のバルブです。

■巻き寿司弁当

地産地消を進めるため、食材の大部分を北海道産食材にこだわり作りました。再生原料を利用した弁当容器、道産間伐材で作られた割り箸を使用しております。



家庭で再利用もできるプラスチック製容器の弁当

繰り返しお使いいただけるプラスチック製の容器を使用。召し上がった後はお持ち帰りいただき、弁当箱として再利用いただけます。





環境問題の啓発啓蒙および情報発信に努めます

札幌ドームの環境についての取り組みを多くの皆さまに知っていただき、さらに大きく輪を広げていくために、さまざまな活動を展開しています。

札幌ドームから生態系の豊かさを発信

国連の定めた「国際生物多様性年」である2010年。日本国内でも、生物多様性への関心がますます高まりました。4万人のお客さまのすぐ側に豊かな自然が広がることをもっと知っていただけるよう、敷地内の生物多様性に着目した子供向けパンフレットを作成するとともに、自主イベント「ウインターアスレチックフィールド」において参加型環境啓発企画「エコ宣言を書いてドームを自然でいっぱいにしよう」を実施。1,314名の皆さまに参加いただきました。



鳥やチョウの色紙に、エコ宣言を書いていただき、イラストの札幌ドームの上に貼り付けていただく企画(3Fコンコース壁面)



当日配布した子供向けパンフレット



札幌市内の小学校の壁新聞へ

子供向けパンフレットは、「分かりやすい」「楽しい」と評価をいただき、札幌市立小学校すべての4~6年生のクラスへ配布される「かんきょう元気新聞」の取材を受け、記事として掲載していただきました。

社内環境セミナーを開催

札幌ドームの緑地計画を担当した大成建設株式会社さまから講師を招き、社員と委託事業者さまを対象とした社内環境セミナーを実施し、生物多様性への関心と知識を深めました。



中学生の職場体験を実施

近隣中学校の職場体験学習に協力し、スタンド席などの清掃作業を体験していただきました。札幌ドームの環境への取り組みに関する講義も行い、理解を深めていただきました。



「コンサレド」植樹に協力

札幌市と北海道立総合研究機構林業試験場によるコンサドレ札幌応援プロジェクトに協力し、敷地内での「コンサレド」(林業試験場開発のハマナスの品種)の植樹を行いました。



「社内エコ行動」に取り組んでいます

離席時のパソコンディスプレイ電源オフなどの節電徹底や、マイカップ・マイ箸利用などの「社内エコ行動」を推進。月別に強化項目を決め、社員一人ひとりが積極的に取り組んでいます。



- エコバッグ利用
- グリーン購入の推進
- クールビズ・ウォームビズの推進
- 節電の徹底
- ごみ分別の徹底

- 公共交通機関利用の推進
- マイカップ・マイ箸利用の推進
- コピー用紙・印刷用紙の削減
- リサイクル事務用品の積極利用

「Kid's ISO 14000プログラム」に協賛しました

北海道と国際芸術技術協力機構が共同で実施している「Kid's ISO 14000プログラム」に協賛し、全道各地の小・中学生の環境意識向上に協力しました。



※「キッズISO 14000プログラム」は、国際芸術技術協力機構 (ArTech) が開発し、国連大学と共同で、国内、国際的に展開している環境教育プログラムです。

エコポイントの環境寄付を実施

地上デジタル放送対応のテレビの購入(2009年度)に伴って取得した家電エコポイントを活用し、北海道内で環境保全活動を行っている複数の団体へ寄付を行いました。



※寄付をした環境NGO ezorockさまは、当社自主イベントのごみ分別案内に協力していただきました。

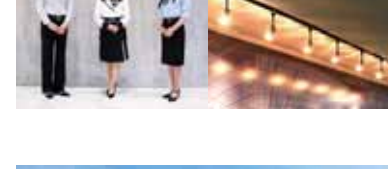
環境に関する情報を広く発信

環境への取り組みに関する情報は、ホームページやパンフレット、新聞、広告などを通じて広く発信。札幌市内の事業者の環境報告書を紹介する「環境報告書展」にも出展しました。



ノー残業デーを実施

2010年12月より、毎月1回「ノー残業デー」を実施。全社員が定時で退社することで、事務所内の省エネルギーを図っています。



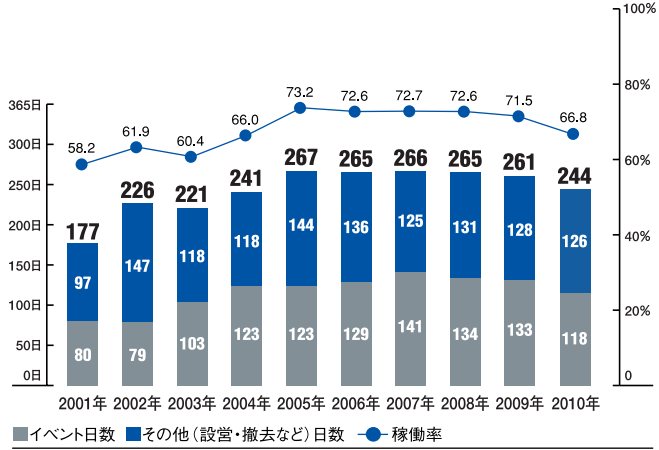
環境活動の歩み

- 2001. 6 自然力を生かした環境配慮型施設として開業 (半地下構造・自然採光・自然換気、コージェネレーションシステム導入等)
- 2004. 3 蒸気系統バルブ類断熱工事
 - 3 ファンス・カフェ サインをLED化
- 2007. 2 売店等でのレジ袋削減の推進開始
 - 3 イベント開催時において「紙カップ専用回収ボックス」を設置し、紙カップの分別回収開始
 - 6 北海道日本ハムファイターズ戦において「マイお買い物袋」配布
 - 7 「紙カップ専用回収ボックス」を改善し、「リサイクルポスト」として設置
 - 8 タウン店舗サインをLED化
 - 9 芝ごみの分別を開始
 - 9 イベント開催時における紙トレイ・弁当外箱の分別回収テスト実施
 - 9 北海道日本ハムファイターズ戦において「マイお買い物袋」配布
 - 11 冬季イルミネーションにグリーン電力の採用開始(以降、毎年実施)
- 2008. 1 ボイラー室給排気ファンインバーター化工事
 - 3 給湯設備改修工事(「エコキュート」導入)
 - 3 リサイクルポストをリニューアルし、紙トレイ・弁当外箱も含め、より分別しやすいデザインに変更
 - 3 「バイオマスプラスチック」製カップの導入
 - 3 ごみ圧縮機の導入
 - 3 環境方針・環境行動指針・環境数値目標の策定
 - 4 公式ホームページに「社会と環境への取り組み」コンテンツを掲載
 - 6 空調冷温水2次ポンプのインバーター化工事
 - 6 「北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展2008」にブース出展
 - 7 北海道日本ハムファイターズ戦において「札幌ドームプレゼンツナイター〜ひとりひとりエコプレイヤー〜」開催
 - 9 ドームツアー・展望台スタッフユニフォームを「マテリアルリサイクルマーク」認定素材に切り替え
 - 9 第10回グリーン購入大賞(中小企業部門)において「大賞」を受賞
- 2009. 4 野球グラウンドの土の再利用を開始
 - 5 プロ野球開催時(グラウンド整備時)の照明モードの見直し
 - 6 月別強化項目を定めた「社内エコ行動」の推進開始
 - 8 酒類びんの分別回収を開始
 - 11 剪定枝の分別回収を開始
 - 11 北海道グリーン・ビズ認定制度「創意あふれる取組」部門(もったいない心分野)に認定
- 2010. 3 コンコース及び南北連絡通路の一部照明をLED化
 - 3 低騒音・省エネ型除雪車の導入
 - 3 イベント開催時における雑がみ分別の開始
 - 4 KID'S ISO14000 プログラムに協賛
 - 8 エコポイントを活用し、環境寄付を実施
 - 11 ペリメーターヒーターインバーター化工事
 - 12 ノー残業デー(毎月1回)の開始
 - 12 環境啓発企画「エコ宣言を書いてドームを自然でいっぱいにしよう」開催
- 2011. 3 太陽光パネル設置
 - 3 屋外用「リサイクルポスト」製作
 - 3 「エコ弁当」を企画
 - 3 2011年度からの環境数値目標を一部上方修正

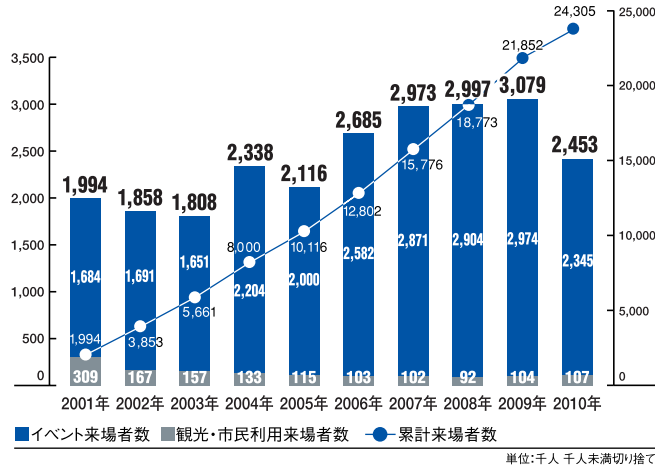


資料

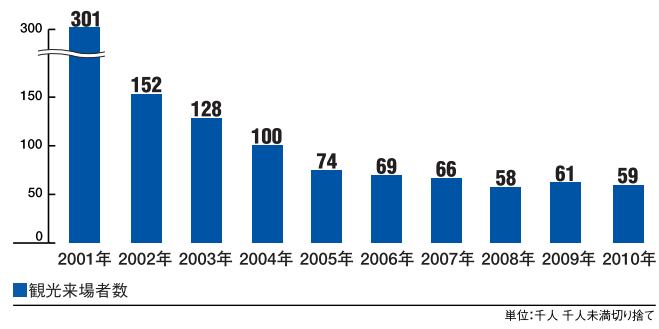
■利用日数および稼働率の推移



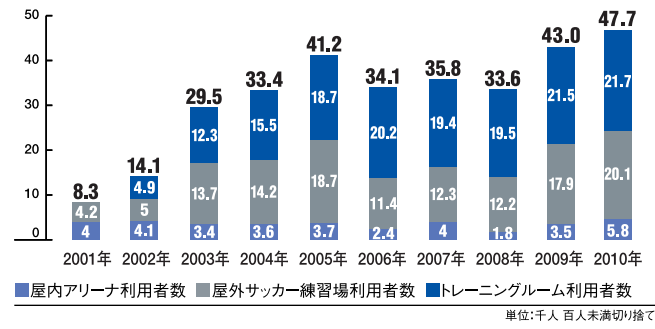
■来場者数の推移



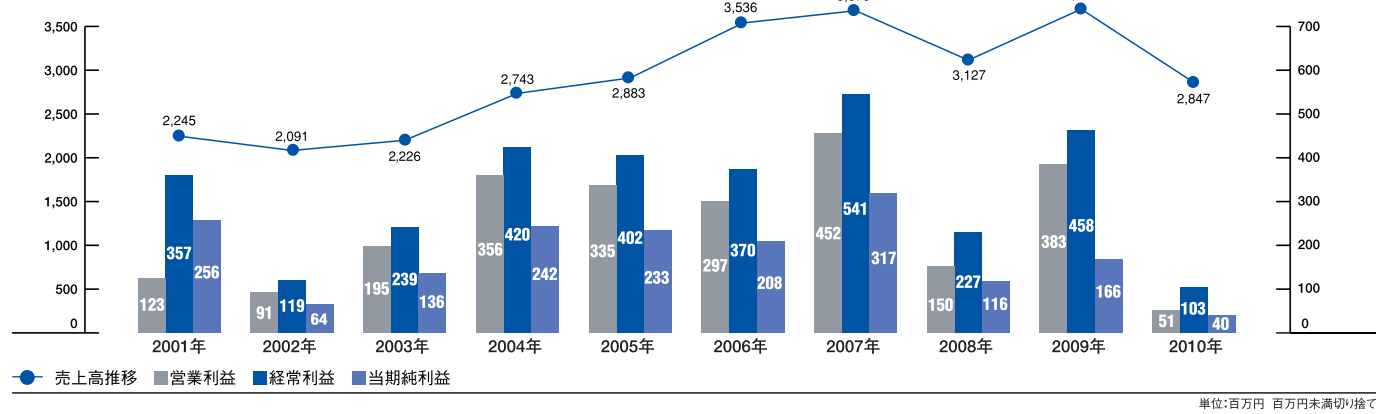
■観光(ドームツアー・展望台)来場者数の推移



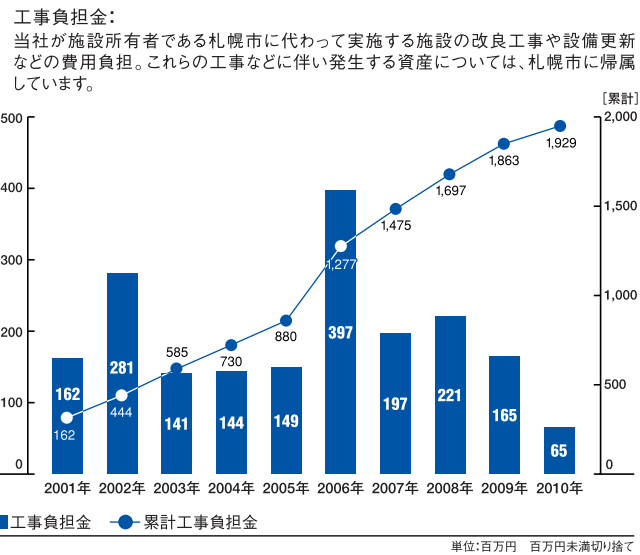
■市民利用 利用者数の推移



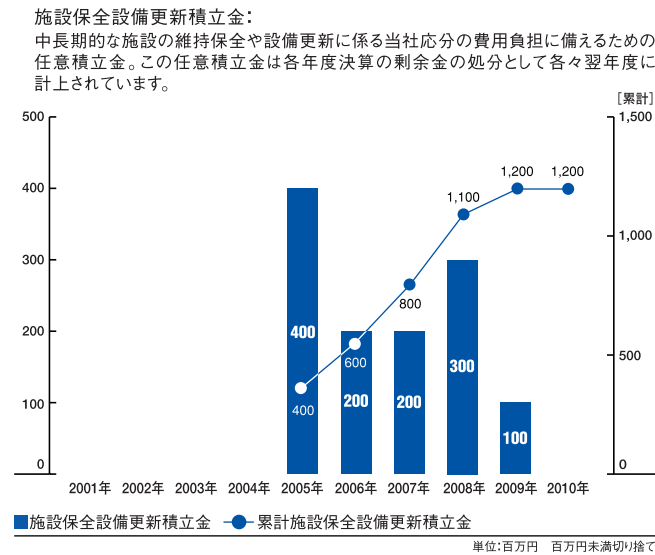
■業績の推移



■工事負担金の推移



■施設保全設備更新積立金の推移



■2010年度開催イベント一覧

4月	2(金)~4(日)	北海道日本ハムファイターズ vs 埼玉西武ライオンズ
	6(火)~8(木)	北海道日本ハムファイターズ vs 東北楽天ゴールデンイーグルス
	11(日)	コンサドーレ札幌 vs 柏レイソル
	13(火)~15(木)	北海道日本ハムファイターズ vs 千葉ロッテマリーンズ
	17(土)・18(日)	春の祭典!USS札幌スーパー中古車市 in 札幌ドーム
	25(日)	コンサドーレ札幌 vs 水戸ホーリーホック
	27(火)~29(木・祝)	北海道日本ハムファイターズ vs オリックス・バファローズ
	30(金)~2(日)	北海道日本ハムファイターズ vs 埼玉西武ライオンズ
5月	5(水・祝)	コンサドーレ札幌 vs 東京ヴェルディ
	10(月)・11(火)	北海道6大学野球 春季リーグ戦
	18(火)・19(水)	北海道日本ハムファイターズ vs 読売ジャイアンツ
	21(金)・22(土)	北海道日本ハムファイターズ vs 横浜ベイスターズ
	22(土)	[イースタンリーグ]北海道日本ハムファイターズ vs 埼玉西武ライオンズ
	29(土)・30(日)	北海道日本ハムファイターズ vs 阪神タイガース
6月	1(火)・2(水)	北海道日本ハムファイターズ vs 広島東洋カープ
	5(土)	MLB Pitch,Hit&Run Japan 2010
	9(水)・10(木)	北海道日本ハムファイターズ vs 東京ヤクルトスワローズ
	12(土)・13(日)	北海道日本ハムファイターズ vs 中日ドラゴンズ
	25(金)~27(日)	北海道日本ハムファイターズ vs 千葉ロッテマリーンズ
7月	9(金)~11(日)	北海道日本ハムファイターズ vs オリックス・バファローズ
	19(月・祝)~21(水)	北海道日本ハムファイターズ vs 千葉ロッテマリーンズ
	25(日)	コンサドーレ札幌 vs 横浜FC
	31(土)・1(日)	We are SMAP! Tour 2010
8月	6(金)~8(日)	北海道日本ハムファイターズ vs 東北楽天ゴールデンイーグルス
	9(月)	第32回 全国スポーツ少年団軟式野球交流大会
	10(火)・11(水)	2010 FIGHTERSジュニア王座決定戦
	13(金)~15(日)	集会イベント
	16(月)	2010 FIGHTERSジュニア王座決定戦
	17(火)	ファイターズジュニアセレクション
	20(金)~22(日)	北海道日本ハムファイターズ vs 埼玉西武ライオンズ
	21(土)	2010 FIGHTERSジュニア王座決定戦
	28(土)・29(日)	ヤマダ電機 家電フェア2010&大処分蚤の市 in 札幌ドーム
9月	31(火)~2(木)	北海道日本ハムファイターズ vs 福岡ソフトバンクホークス

■札幌ドームの歩み

- 1993. 1 2002FIFAワールドカップ™大会国内開催候補地に決定
- 1996. 1 札幌市、ドーム化を決定
- 1996. 5 2002FIFAワールドカップ™大会日韓同時開催決定
- 1998. 6 着工
- 株式会社札幌ドーム設立
- 1999.10 札幌ドーム条例制定
- 2001. 5 竣工
- 6 開業(6/2)
- 9 来場者100万人突破
- 2002. 3 日本ハムファイターズ フランチャイズ移転計画 「北海道新聞」紙面で公に
- 6 2002FIFAワールドカップ™大会開催
- 7 日本ハムファイターズ、フランチャイズ移転正式決定
- 10 トレーニングルーム オープン
- 12 「J1ベストピッチ賞」受賞
- 2003.10 札幌ドーム敷地内に、フランチャイズ事務所棟完成
- 2004. 3 北海道日本ハムファイターズ移転元年シーズン開幕 「札幌ドームMVP賞」創設
- 11 新人工芝導入
- 2006. 3 来場者1,000万人突破、メモリアルコーナー設置
- 4 指定管理者制度導入
- 5 こどものひろば「キッズパーク」オープン
- 6 開業5周年「ありがとう札幌ドーム5周年キャンペーン」
- 10 北海道日本ハムファイターズ 日本シリーズ優勝
- 2007. 2 FIS ノルディックスキー世界選手権 札幌大会開催
- 10 来場者1,500万人突破
- 2008.10 2008FIA世界ラリー選手権 第14戦 パイオニア・カロッツェリア ラリージャパン開催
- 2009. 3 プレイヤーズビューシート設置
- 8 来場者2,000万人突破
- 2010. 9 2010FIA世界ラリー選手権 第10戦 ラリージャパン開催
- 2011. 6 開業10周年、来場者2,500万人突破

■会社概要

商号	株式会社札幌ドーム
所在地	札幌市豊平区羊ヶ丘1番地
代表者	代表取締役社長 長沼 修
設立	1998年10月1日
資本金	10億円
売上高	28億4,764万円(2011年3月期)
従業員	68名(2011年6月現在)
事業内容	札幌ドームの管理運営業務全般 [地方自治法及び札幌ドーム条例の規定に基づく] 札幌ドーム指定管理者 1.貸館事業(アリーナ・諸室等のイベント利用への貸出及びイベント運営サポート) 2.商業事業(ドーム内の飲食物販業務の管理運営) 3.観光事業(ドーム展望台及びドーム見学ツアーの運営) 4.市民利用事業(草野球、サッカー練習場及びトレーニング室の利用管理) 5.広告事業(ドーム内広告看板の販売管理) 6.チケット事業(各種イベントのチケット販売管理)
株主	札幌市(55%)、札幌商工会議所、北海道電力(株)、北海道瓦斯(株)、北海道新聞社、(株)北洋銀行、(株)北海道銀行、サッポロビール(株)、(株)プリンスホテル、(株)竹中工務店、大成建設(株)、北海道コカ・コーラボトリング(株)、(株)電通、(株)電通北海道、(株)大広、東日本電信電話(株)、(株)近畿日本ツーリスト北海道、(株)NTT東日本-北海道、エヌ・ティ・ティ北海道テレマート(株)、北海道キリンビバレッジ(株)、北海道ペプシコーラ販売(株)、(株)JTB北海道、(株)JTB商事、北海道放送(株)、札幌テレビ放送(株)、北海道テレビ放送(株)、北海道文化放送(株)